



富田の風

豊かな心、すぐれた知性、
たくましい体を備え
粘り強さと実践力のある
生徒の育成

Tonda Junior High School 2021. 8. 30 校長 内之八重正裕

チャンスを捉えて できることから

自立を促す2学期にしたいと思います

8月中旬頃から新型コロナウイルス感染症の拡大が顕著になり、「2学期の始業の日を延期するような事態にならなければいいが・・・」と心配もしましたが、予定していた27日(金)に2学期がスタートしました。始業式や終業式では、各学年の代表と生徒会代表が新学期の抱負や学期末の反省を発表してくれます。「端的によくまとめているなー」と、いつも感心しながら聞いているところです。

そこで、この機会に私も2学期の抱負を書いてみようと思います。2学期は、体育大会や合唱コンクールという二大行事があります。また、早いもので生徒会役員も1・2年生にバトンタッチする日が近づいています。こうした行事を準備したり企画・運営・参加したりする中で、生徒が自主的・主体的に活動する機会を増やしていきたいと思えます。そうすることで、生徒の達成感や自己肯定感、学校生活への満足感を高めることもできると思えます。特に、3年生は卒業まで半年程度となりますので、よい思い出が増えることを願っています。



ところで、「生徒が自主的・主体的に・・・することを目指す」というフレーズは、私が教職に就いた頃にもよく使われていました。学習(授業)についても、「生徒が主体的に学習するための・・・」というようなテーマで研究会や講演会が開催されていました。残念ながら40年近くが経った今でも飛躍的に変化したという実感はあまり強くありません。「言うは易く行うは難し」の一例かとも思えます。

ですから、上のタイトルに書いたように、行事などの「チャンスを捉えて、できることから自立を促す」2学期にしたいと思えます。そのためにも、一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願っています。

<現時点での予定です>

生徒会役員選挙	9月24日(金)	
生徒会役員任命式	10月15日(金)	※全校専門委員長及び副委員長の任命も行います。
体育大会	10月10日(日)	
合唱コンクール	11月5日(金)	※新富町文化会館で実施する予定です。

青少年の声を聴く集い

8月4日(水)に新富町教育委員会主催の「青少年の声を聴く集い」が総合交流センターきらりで開催されました。

第1部では、町内の各小中学校代表が「夢や希望」を発表しました。本校からは、3年生の高村泰雅君が「世界の平和のために」、小野愛奈さんが「何のために働くのか」という題で発表しました。二人とも原稿を見ることもなく、堂々とした発表でした。また、二人とも世界に目を向けたうえで、他の人の役に立つ具体的な仕事を挙げながら夢を語ってくれました。道徳や学活の時間の資料としても使えるような素晴らしい内容でした。

第2部では、新富町のご出身で県教育長も務められた飛田洋先生の講演がありました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、町内の児童生徒が会場に集まることができませんでしたので、発表者以外の生徒は学校に登校して、各教室でオンラインで発表や講演を聴きました。

これらの様子は、MRT宮崎放送の取材があり、8月21日(土)の「みらい みやざき 学び隊」の中で放送されました。高村君と小野さんの発表やインタビューの様子がたくさん取り上げられていました。

【下の写真】 高村泰雅君と小野愛奈さんの発表や取材を受ける様子



【裏面があります】

コロナに負けるな！

県全体に県独自の緊急事態宣言が発令され、一部の地域は蔓延防止等重点地域となりました。2学期も新型コロナウイルスとの闘いが続きます。最近では、感染力が強いと言われるデルタ株の影響が指摘されるようになったこともあり、今まで以上に規制や禁止事項が増えて、窮屈でストレスがたまりそうな日々が予想されます。「上手にストレスを発散する方法を見つけること」が、これからを楽しく逞（たくま）しく生きる鍵なのかも知れません。くれぐれもゲームやSNS、インターネットなどにのめり込むことがないように気をつけましょう。

始業式では、私からのメッセージを、「コロナ（ウイルス）に負けるな！」というスローガンに託して話しました。

まず、「自分を守れ！」ということで、朝の検温や健康観察の励行・マスクは鼻まで覆うこと・3密の回避など、個人レベルで徹底してほしいことを示しました。（下の写真 上段の中央）

次に、正しい判断力をもち続けること、人間らしい（思いやりの）心をもち続けることを訴えました。報道によると、医療従事者等への誹謗中傷や、新型コロナウイルスに感染した患者やその家族への誹謗中傷が問題視されています。

医療関係者には大いに感謝すべきですし、自分の身にも危険があるにも関わらず患者さんのために激務を続けておられることは尊敬の一語です。始業式の話の中では時間の関係で割愛したのですが、

人は何のために働くのか？

という問いに、一つの答えを示してくれているようにも思います。

また、感染してしまった人たちへの接し方についても、タレントの志村けんさんが昨年感染して亡くなり、多くの人が悲しみ残念がったことやプロスポーツ選手、芸能人などの（いわゆる）有名人も感染例が多く出ていることを挙げて、自分を含めた誰もが感染する可能性があり、「感染したくて感染した人はいない」ということを認識してもらいました。

そして、「コロナ禍」と言われるこの時期に、どう振る舞うことが「思いやりのある言動なのか」を考えてもらいました。例えば、感染した人をそっと見守るという思いやりもあるでしょうし、仲良しの間柄であれば「今までと変わらないよ」ということを伝えることもあるかと思います。コロナに関することに限ったことではありませんが、「富田中では、他の人が嫌な思いをするようなことを言ったり、したりすることはないようにしましょう」ということは、以前から伝えてきました。今回も、胸を張って「そんなことは絶対にありません！」と言える富田中生であってほしいと思います。

ところで、上にあげた誹謗中傷の多くは、実は大人が起こしていることではないでしょうか？子どもは、大人や社会を写す鏡だと言われます。われわれ大人の何気ない言葉や行動が子どもたちにしみ込んでいきます。大人の言葉や行動が、子どもに響いてよい影響を与えることを「感化」というそうです。宮崎県の教育長もされたことのある方が言われた「教育とは感化である」というフレーズは、今も私の心に残っています。富田中の生徒を「感化」できる大人でありたいと思います。

